[全面改修]気密施工 特記仕様書

（１） 全体の注意事項

気密性能の確保のため、断熱層の施工並びに気密層の処理は本仕様書の事項を基本に、監督者と十分に協議した上で実施すること。

- （２）の設計時の注意点を確認し、気密欠損の危険性の高い仕様は避けること。
- （３）の指定した気密部材、気密補助部材を必ず使用すること。
- 電気設備工事、給排水衛生設備工事他、気密層貫通部分は特に注意をし、必要ならば現場発砲ウレタンにて断熱補強、気密処理を行うこと。業者へ委託する際は、気密処理について十分に説明した上で指示をすること。
- （４）で図示の断熱層、気密層の連続を徹底すること。
- 化粧、野物関わらず、木材は十分に乾燥したものを用いること（変形、収縮、材面割れにより隙間が生じるため）。
- 本物件の気密性能の目標値は 1.0㎠／㎡ とする。
- 以下のタイミングで気密測定を実施し、漏気の発生等不具合がある箇所についてはその都度解消すること（□にチェック）。

✓ □ 断熱層施工後　　□ 気密層施工後
☑ 特定工事終了後（ ※工事名称を記載 ）
☑ 竣工後引き渡し前
□ 実施しない

（２） 設計時の注意点（設計に反映した項目は□にチェック）

- □ 断熱層、気密層の連続
- □ 気流止めの実施（壁内気流の防止）
- □ 剛床工法など面材気密の実施
- □ 玄関、浴室等の土間部分の気密化（土台気密用パッキンを採用）
- □ 気密部材、気密補助部材の使用
- □ コンセント、スイッチ、ダウンライトの配置、数量の整理
- □ 気密性の高い製品の使用
  （点検口、分電盤、レンジフード、換気システム、給気口等）
- □ 変形、収縮、背割れ等のある木材のアラワシ

（３） 使用する気密部材、気密補助部材について

部材名	商品名	メーカー	使用箇所
透湿防水シート	タイベック®シルバー	旭・デュポン	外壁
防湿気密シート	ダンタイト	日本住環境	断熱層室内側
気密テープ	ツーエステープ	日本住環境	すべての箇所共通
ボード気密用パッキン	ボード気密用パッキン	北海道気密販売	
土台気密用パッキン	天端リスト・土間リスト	日本住環境	基礎天端と土台部分
コンセントボックス	バリアーボックス	日本住環境	コンセント各所
貫通部用気密部材	ドームパッキン	日本住環境	外壁貫通部廻り
貫通部用気密部材	ゴームパッキン	日本住環境	外壁貫通部廻り
柱廻り	気密柱バリアー	日本住環境	柱、梁廻り

※メーカーの取り扱い説明書記載の施工手順、注意点を遵守のこと。

（４） 断熱・気密ラインの確認、注意箇所の図示

- 断熱層 ┌┄┄┐ へハッチ（塗りつぶし or SOLID）もしくはマーカーを引く
- 気密層 該当の箇所にライン（一点鎖線1.0mm幅）を引く
- 断熱層の簡易チェック（□にチェック ※併用の場合は複数）

屋根・天井：☑ 屋根垂木間充填断熱
□ 屋根外張断熱
☑ 屋根内張断熱
☑ 天井断熱
□ 桁上断熱

壁：☑ 柱間充填断熱
□ 外張断熱
□ 内張断熱

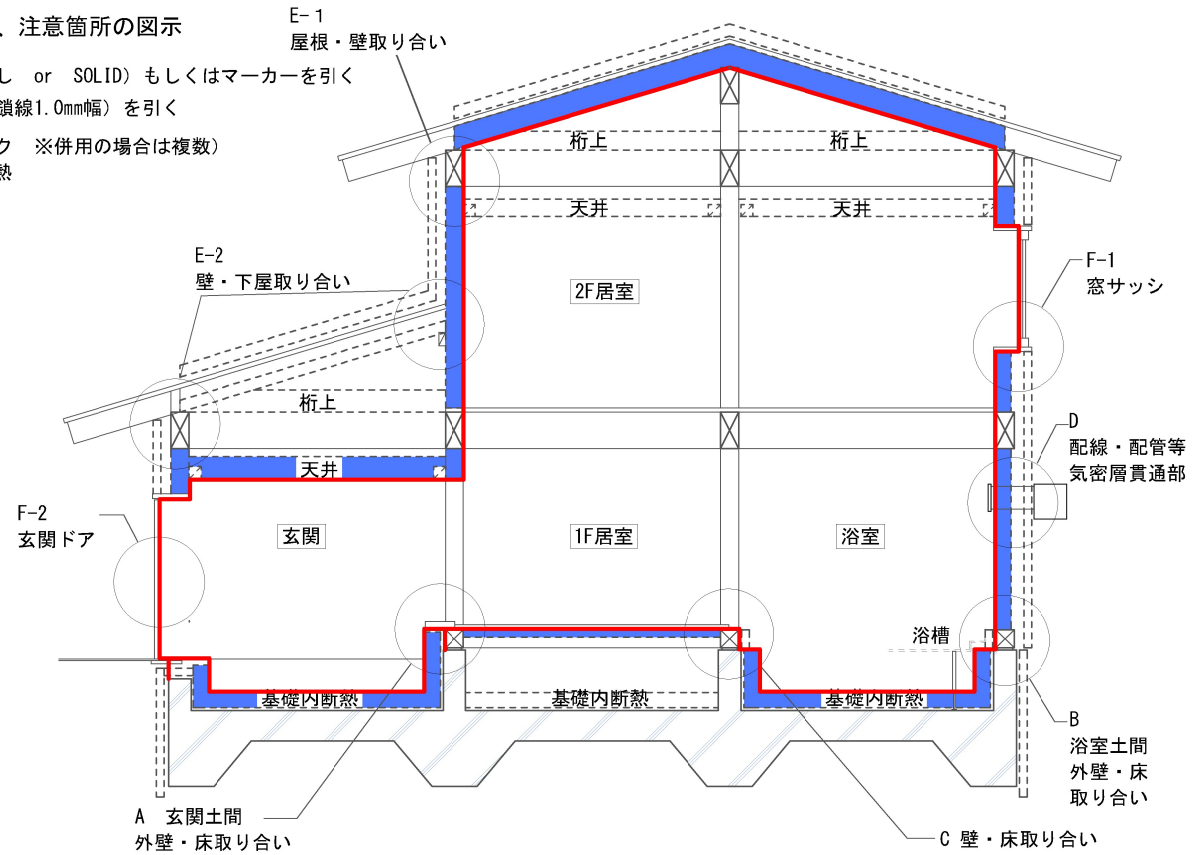
床・基礎：☑ 床断熱
□ 基礎内断熱
□ 基礎外張断熱
□ 土間無断熱
☑ 土間基礎内断熱

サッシ（開口部）：□ 既存利用
☑ 交換（サッシ）
□ 交換（ガラス）
□ 2重窓

玄関ドア：□ 既存利用
☑ 交換

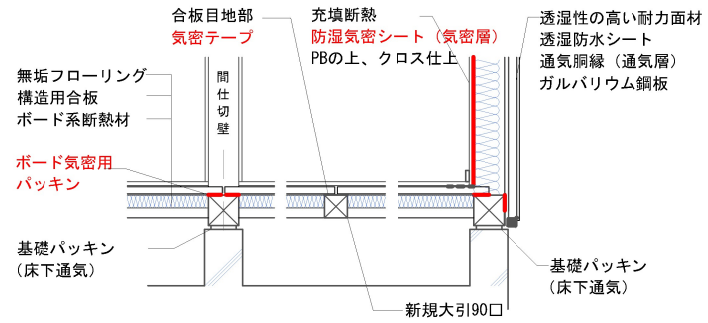
剛床工法：☑ 採用
□ 不採用

気流止め：□ 実施
□ 未実施



C 壁・床取り合い詳細図（1／30）

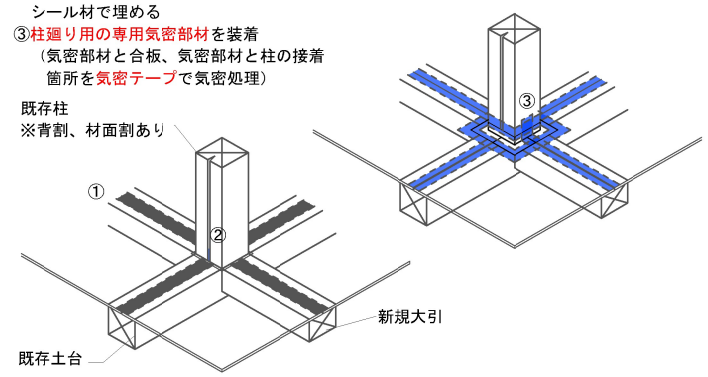
■外壁充填断熱と床断熱（ボード系）の仕様



[改修の場合]
- 合板の目地に気密テープを貼る場合、合板の天端が気密層となる。
  そのため、合板を欠きとる貫通部分（柱、配管）等には専用気密部材を用いること。
- 柱の背割り、材面割れがある場合には、シール材等を充填して隙間を埋めること。

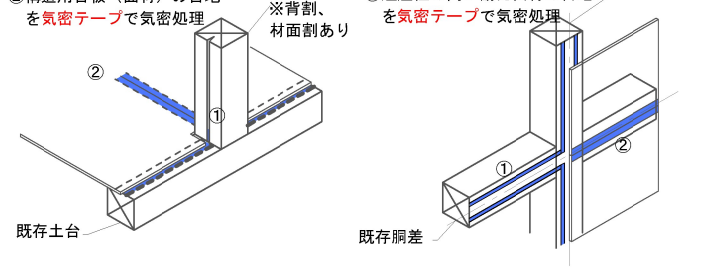
■【 床 】合板（ボード）気密工法の採用

①構造用合板（面材）の目地を気密テープで気密処理
②背割、材面割れがあれば割れの下端部分をシール材で埋める
③柱廻り用の専用気密部材を装着
（気密部材と合板、気密部材と柱の接着箇所を気密テープで気密処理）



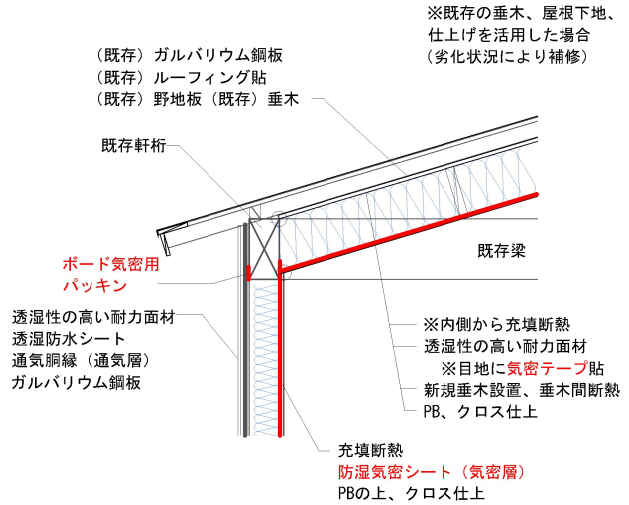
■外周柱周りについて
①柱、梁と合板の接着面にボード気密用パッキンを貼る
②構造用合板（面材）の目地を気密テープで気密処理

■外壁側の面材の張り方
①柱、梁と合板の接着面にボード気密用パッキンを貼る
②透湿性の高い耐力面材の目地を気密テープで気密処理



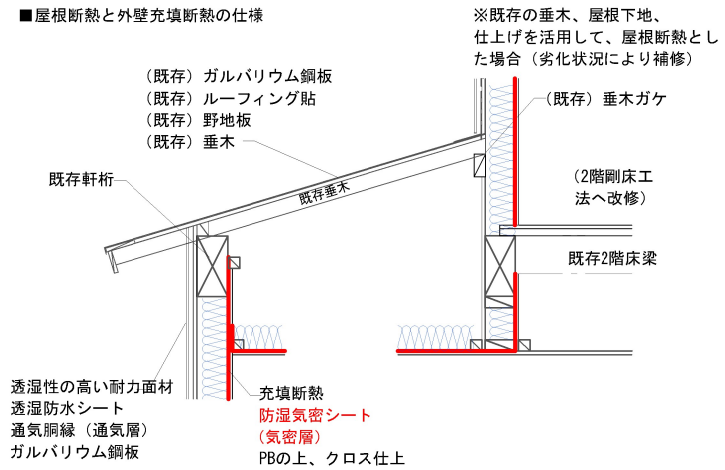
E 外壁・屋根取り合い詳細図（1／30）

■屋根断熱と外壁充填断熱の仕様



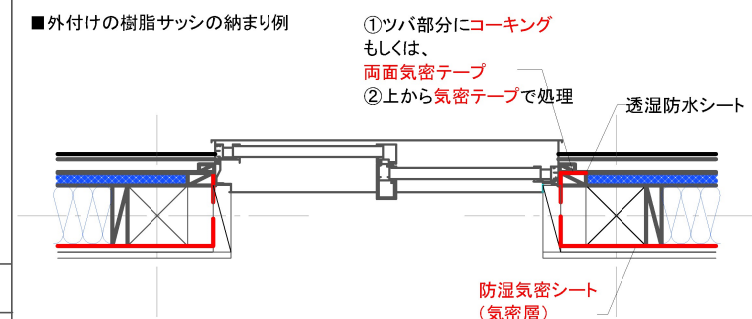
[改修の場合]
- 既存梁と新規天井仕上げの取り合いの処理　・屋根に通気層がない
- 室内側から構造用合板

■屋根断熱と外壁充填断熱の仕様



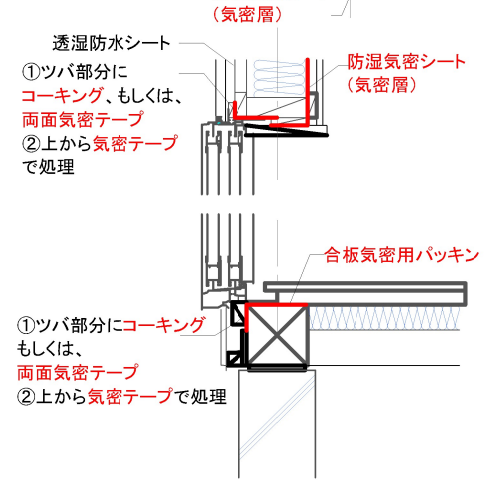
F 開口部詳細図（1／15）

■外付けの樹脂サッシの納まり例



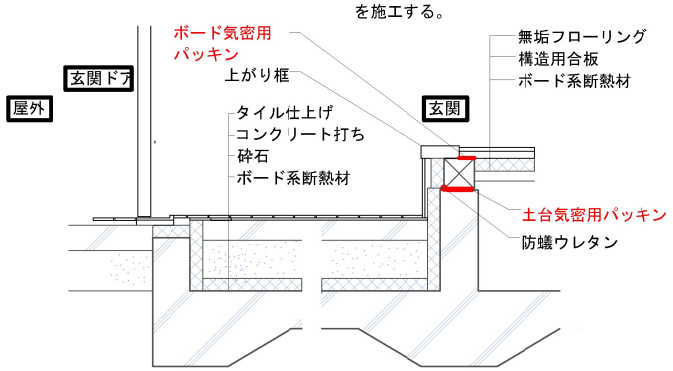
①サッシ取付用のツバの気密性を高めるため、コーキングもしくは、両面の気密テープを取り付け下地に4周回す。

②取り付け後、ツバ部分を外側から気密テープで処理（透湿防水シートの取り合いに注意）



A 玄関土間と外壁・床取り合い詳細図（1／30）

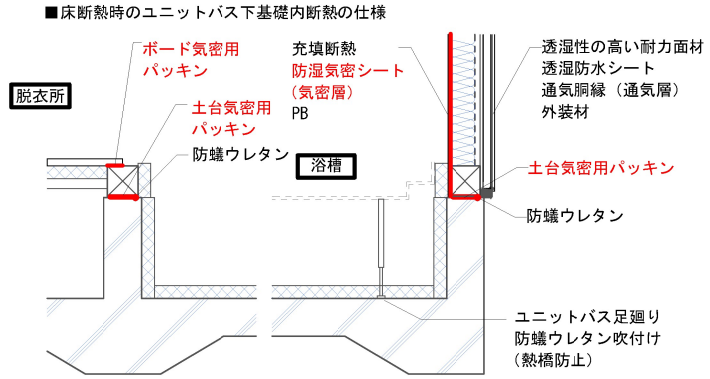
■床断熱、玄関土間の基礎内断熱の仕様　※床断熱の場合は、土台から土間床下、基礎立ち上がりの内側にかけて断熱材を施工する。



[改修の場合]既存基礎、土台をそのまま使用する場合は、通気用基礎パッキン部分を気密テープ、防蟻ウレタンで気密処理を行うこと。

B 浴室土間と外壁・床取り合い詳細図（1／30）

■床断熱時のユニットバス下基礎内断熱の仕様

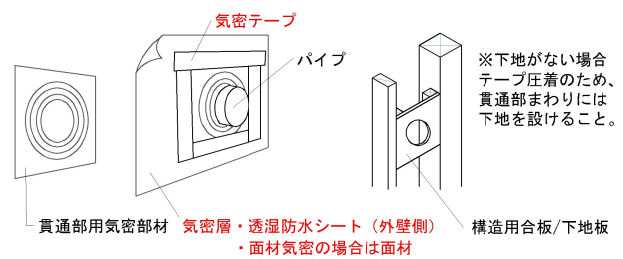


[改修の場合]既存基礎、土台をそのまま使用する場合は、通気用基礎パッキン部分を気密テープ、防蟻ウレタンで気密処理を行うこと。

D 配線・配管等気密層貫通部（1／30）

■貫通部の処理（大径）　※対象：水道配管、エアコンスリーブ、給排気装置等

①貫通部用気密部材をパイプ径に合わせてｶｯﾄする
②気密層貫通部（パイプ）に貫通部用気密部材を装着し、ツバ四方を気密テープで気密処理を行う。※面材がない場合には下地を設置のこと。



■貫通部の処理（小径）

外径が小さい18mm～42mmのパイプには貫通部用気密部材を用いる。